

むさしの TALK

いつまでも個性豊かで、 老若男女が集えるまちであってほしい

こまやかに人間らしさを描写する女流作家の乃南アサさん。

20年来住み続ける、地元・武蔵野市を語っていただきました。

乃南アサさん



乃南アサ (のなみあさ)

1960年、東京都生まれ。広告代理店勤務などを経て、1988年の日本推理サスペンス大賞優秀作『幸福な朝食』で作家デビュー。1996年『凍える牙』で直木賞を、2011年『地のはてから』で中央公論文芸賞をそれぞれ受賞。ミステリーからエッセイまで、長編短編を問わず幅広いジャンルで著書多数。巧みな人物造形、心理描写が高く評価されている。

PRESENT

今回取材した、乃南アサさんの最新作「新釈にっぽん昔話」の直筆サイン本を抽選で5名様にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



武蔵野市は、駅周辺の商店街が充実していて、地元で何でも事が足りるし、治安が良くて、坂道が少なく歩きやすい。タヌキやハクビシンを見かけるくらい自然環境にも恵まれていて、住んでいて心地いいですね。20代の後半から吉祥寺に住んでいるので、愛着もあります。

「住みたいまち第1位」に選ばれて、高級住宅地のイメージで語られることもありますが、実際は信じられないくらい安いお店もあつて安心して暮らせますよ。私は、まちは「サラリーマンばかり」「団地だけ」みたいな均質な感じよりも、老若男女いろいろな人が混ざり合つて、バランスが取れている方が健全だと思っんです。日本語学校に通う外国人がコンビニにあふれていたり、有名人が歩いていたとしても、住民はみんな「何でもあり」と鷹揚に受け入れています。意識はしていないけれど、そんな日常が私の作品のスパイスになっているのかも。

住民たちには地元愛があつて、自分たちでまちを良くしようという気概があります。日曜日の朝、おそろいのベストを着て一斉にごみ拾いをする人たちを見かけられるのですが、コミュニティが機能しているいなと。また、吉祥寺の駅前商店街には、個性が光る親しみやすいお店が多く、まちを盛り上げようと頑張っています。この居酒屋「武蔵」には、開店以来20年以上も通い続け、ご主人とは独立前に他店で働いていた頃からお付き合い合いです。最近はチェーン展開のお店も増えて、すっかり若者向けのまちになってきてしまいましたが、私は地元根づいてるお店の方がずっと好きです。これから、まちから吉祥寺らしさが失われなことを願っています。

